



[講演]

国際経営学研究科との 連携の可能性と課題

経営学部教授

スコット・デイヴィス 氏

○**デイヴィス** 皆さん、こんにちは。経営学部のデイヴィスです。今日は、経営学研究科の国際経営学専攻、Master in International Business Program (MIB と呼んでいますけれども) において、お礼の意味合いも含めて、日本語研究センターの皆様のお力をお借りしながらどのように日本語教育を行っているのか、そして、学習言語が英語である研究科における日本語教育の意義について話をさせて頂きます。まずは、せっかく宣伝できますので、MIB とは何なんだという話を紹介させていただきます。MIB は、「答えのない時代」だといわれている現在において、立教大学の精神に相応しい経営のあり方を模索する場であると考えています。「答えのない」時代に対して価値観で持て、問題を商機として捉えることの出来る経営者を育成することを目的としています。【スライド③-3】

ビジネスのあるべき姿を概念化して、それを計画・実行し、さらに評価していくというプロセスですが、異文化においても、ダイバーシティにおいても、バラエティーに富んでかつ随時動いているコンテキストの中でそれができる人を育てることが最近においては重要です。これを立教らしくいうと、多くの人にはリスクと危険性しか見えないところにオポチュニティを見い出すこと、限界しか目に入らないところに可能性を見つけ出すこと、要するに変革的経営、夢を語ることが立教スピリットである「自由と責任」を現代に活かすことだと考えます。答えのない時代にそもそも答えはないと言われてきた話はそれまでですが、我々はポジティブ変革を可能とするビジネスとは何であるかということ、その場その場で、学生と一緒に悩みながら考えていこうという、非常にやりがいあることをしています。私自身も非常に恵まれているな

と思っております。【スライド③-4】

MIB のプログラム設計ですが、MIB は 2 年のプログラムで、スライドに Year1、Year2 とあります。数年前までは 4 月スタート、3 月で終わる通常の学年でしたが、海外から多くの人たちに入っていただきますので、海外との「期ずれ」を直すという目的で 9 月から始まる学年に変えました。多くの人に多大な迷惑をおかけしてしまいましたけど、簡単なことかなと思いながら、決して簡単なことではありませんでした。例えば、立教大学が、そのときに丁度「第 1 学期」、「第 2 学期」だったのを、「春学期」、「秋学期」と呼び方を変えました。南半球の学生も志願者も多いので大分混乱しましたね。結局、スライドにあるように第 1、2、3、4 学期と続けて呼んでいます。

経営の経験を持っていない「Pre-Experience」といわれる新卒の学生を対象とするプログラムですので、先ず第 1 学期に、ビジネスプロジェクトを通じて、経験的学習で基礎を学んで貰います。「Ideation」から「Documentation and Delivery」全部で 6 つの専門モジュールでチームワークをしながらビジネスプロジェクトを完成させます。

これが終わりましたら、エレクトィブスの履修が始まります。海外からも教員に来ていただきますので、クォーター制も利用して集中で専門科目も展開します。最後に第 4 学期で、修論に代わるプロジェクトがあります。今年のこのプロジェクトのテーマは、日本国内にある会社に対して、海外のビジネスを見つけて M&A の買収のターゲットとして案件をまとめてプロポーザルを作ることです。【スライド③-5】

MIB は日本を地軸とした経営に集中する部分が大半です。シラバスを見ると多くの科目に「In Japan」や「Japanese」、がつかます。「経営戦略」や「Ideation」といった一般的な科目でも、日本の専門家をつくりたいので、海外で受けられるようなものとは若干違います。午前中にグループワークが出来るように専門科目は午後にし開講しません。【スライド③-6】

プログラムの定員は 10 名です。構成を見ると、ブルー色の部分が 2 年間 MIB に在籍する学生です。現在、全員が海外からの学生です。緑が、「5 年間一貫プログラム」といって、学部の 4 年と大学院の 2 年を束ねて、ずば抜けて優秀な人であるということを再三にわたって、途中で何度も確認されて進む 5 年間で学士と修士を 5 年間で修得する学生です。もう 1 つ特徴的なところが IDD

プログラムです。海外にある提携校で、向こうで1年やって、ここで1年やって、両方の学位を持って出るという「Double Degree Program」です。これに加えてスポンサーされて入る学生もいます。サウジ政府、そして JICE が管理しています日本政府の African Business Education Program (ABE) があります。アフリカといっても、モロッコだとか、アフリカ全土が対象です。非常に優秀で素晴らしい学生が多くいるプログラムです。2016年の3月で卒業した ABE の学生が3人で南アフリカから2人、タンザニアから1人で、そのまま帰りまして、ブリヂストン南アフリカ、トヨタアフリカ、そしてアフリカで事業を展開するコンサルタント会社にすぐさま採用されました。評判が非常によく、入学問合せも非常に増えています。もう1つが JDS というプログラムです。これもまたスポンサープログラムで、ネパールから2人がいます。【スライド③-7】

国籍で見ると非常にバラエティーに富んでいますが、性別別に見ると丁度半々です。女性の社会進出が話題になるのが日本だけではないので、コホートの半分が女性である環境で学ぶことは将来のビジネスパーソンにとって非常に意味のあることだと思っています。しかし、このバランスは Quota を設けて出来た成果ではなく、あくまでも能力ベースです。【スライド③-8】

恐らく立教大学の大学院の中で留学生の割合が断トツ大きく、かつダイバーシティーが高い研究科ではないかと思います。世界中からたくさんの優秀な方々に来ていただいています。

先ほど述べたように MIB の学習言語は英語です。MIB では、日本のコンテキストの中でありながら日本語が全く不要なグローバルスタンダードの学習環境を保証されます。日本を地軸とした経営が学べるが、日本語を使う必要は一切ないということが MIB の特徴で、多くの学生に来て頂ける理由にもなるとの想定で設置されました。しかし、想定外のところがありました。【スライド③-10】

随時個別的に相談を行っていますが、学内のどこかの会議室に集まって2時間ぐらいかけてお昼を食べながら MIB の学生全体で話し合いの会も行っています。「嫌なことでも何でも言いたいことがあれば言って下さい」という場です。学生からは、例えば「私がやりたいこと、将来のことを考えると、こういう授業もあるとうれしい」など、多少苦情もありますが、プログラムを発展させていくためにどうすればいいかという貴重なアイデアが多く出る場です。そこであるとき、就職活動をしているデビッドというスウェーデンからの学生が面接で言われたこ

とを語りました。「オール英語のプログラムであるにしても、日本で学ぶ以上ある程度の日本語が出来るはずだよね…」のようなコメントでした。要するにプログラムの目指す方向性と国内マーケットの要求に乖離があるという指摘でした。もう1つ、海外の学生が日本で学んだ経験を活かして卒業後に帰国して差別化された学歴を持ってキャリアを作っていくとが想定されました。ところが、修士号の修得だけではなく日本で数年間の職歴も作って帰国した方が「日本を深く知る」経験者として評価して貰えるパターンもありました。オール英語でありながら、日本語を学ぶ場を設ける必要があると気付かれました。

もちろん、立教大学で日本語教育センターが提供してくれる大変に充実した日本語教育プログラムがありましたが、MIBの学生の在籍期間が短く、かつビジネスに特化した日本語にニーズが集中しているため、全学を対象として提供されるそのプログラムを受けるMIB生が少なかった。デビッドの話聞いてから日本語教育センターの池田先生と丸山先生に相談してみました。電話対応、メールの書き方など、日本のビジネス環境に必要な限定的な範囲での日本語能力を効率よく身につける方法はあるのかを聞きました。そこから実に驚く早さで今日ご紹介するJapanese for Businessプログラムが開発されました。感謝し切れないほどうれしいことに、デビッドがまだ在学しているあいだに、相談したその次の学期で、彼が希望していった日本語プログラムが開講されました。**【スライド③-11】**

それで出来ましたAdvanced Japanese及びIntermediate Japaneseの二つのコースによって想定したとおりのキャリア・ベネフィットが明らかに得られました。しかし、それ以外にも意外な効果もありました。非常に簡単に言えば、その効果は概念化能力の向上でした。

言語学者ではないので、説明が難しいが、例えばJapanese for Businessの導入後にその結果どうなるかと。デビッドが喜ぶだろうと思っていて、そのとおりでした。意外な結果が実はありました。5年間一貫で日本人の学生が1割前後、随時いるんです。海外から来る人たちは多岐にわたるバックグラウンドを持っているので、その人たちが自分のバックグラウンドを共有しながら、日本を知り尽くしている方々と会話をして、日本での、アジアでの、アフリカでのという、大変な議論ができるんですけど、日本人が言ってるんだと。日本人の説明が場合によって、高等教育全てを受け終えないとわからないような難しい表現になったりする場合があるんですけど、海外から来た、インテンシブの授業を受けた

学生さんがいると、概念化が違う形でできるんですね。これが驚きだったんです。

例えば、私は MIB で CSR や Ideation などの科目を担当している。CSR を理解するために社会的背景、価値観のなどが重要なテーマになります。Japanese for Business を導入する以前の時期で日本の習慣や社会の特質が課題になると私が説明しなければならないことがほとんどでした。日本人の学生が説明しても日本の概念をベースとして説明しますので海外の学生にとって理解が進まない場合があります。逆に私が自分の経験を紹介しながら、異なる観点から説明すると海外からの学生の理解を示します。ところが、Japanese for Business の導入後になると説明が必要な課題が出るとアドバンスかインターメディアイトを受けたことのある海外の学生が手を挙げてきて説明をしてくれることが頻繁に起こります。要するに、MIB のプログラムで目指している「高度な感受性とより深い観察能力を持って日本のコンテクスチュアリティを理解すること」を学生が Business for Japanese で学ぶ日本語の手紙の書き方など、ビジネスというコンテンツとそれほど関係がないと思われる手紙を書くのに必要な社会的序列、礼、相手、相手と自分との関係などの考え方を学ぶことによって日本の思想的なフレームなども学ぶことが出来ます。

それでもって、日本企業の組織構造とマネジメントプロセスに関する理解がその学びをベースに進みます。全く想定外でした。**【スライド③-14】**

実は MIB で数年前に、ジョイントディグリーを試みました。移動しながら 3 つの国の学生が 3 つの国の大学で学んで学位を取るという拡大された留学プログラムです。まずは、カナダに 3 カ国の学生が集まってきて、カナダで 1 学期、立教で 1 学期、第三国で 1 学期で学びます。ビジネスと同時にプログラムに一貫として 2 つの言語も学びます。実際にはフランス語と日本語でした。本来ならその日本語教育のあり方について丸山先生、池田先生に相談を申し上げるべきところでしたが、順番で最初の国であるカナダで日本語のカリキュラム及び使用するテキストブックまでが既に決定され、立教で教えるチャプタまで決められていました。最終的に外部の非常に優秀な日本語の先生に来て頂いてカナダの大学が指定した文法などが中心だった内容を教えて頂きました。授業は非常に好評で最後の国で実施された日本語検定試験の成績も非常に良かったと聞いています。短い時間で素晴らしい日本語教育でした。しかし、MIB の学生と同じ内容の授

業を受けても、日本語教育センターが開発した Japanese for Business を受ける MIB 生が示すような感受性やコンテクスチュアリティがほとんど見られません。

【スライド③-15】

この話に結論はありませんが、ハッキリと解ったことがあります。Japanese for Business はプラスアルファのオプションとして MIB に導入されました。ある意味で MIB 生のキャリアに対する不安を解消する目的で導入しました。しかし、弱点を補てんするようなものとして発足した日本語教育プログラムは完全に MIB が目指している教育に対する Facilitating Factor であることはその後で明らかになりました。日本での学習言語が英語でありながら、このような日本語教育プログラムがあるがために、日本のコンテクスチュアリティに対する学生の理解が進むと思っております。

今まで MIB では、Japanese for Business を対外的に宣伝しておりません。宣伝をしなくても受付にくる受験の問合せで話題になります。卒業生による口コミで Japanese for Business の評判が広まっていきます。恐らく日本でも、このようなプログラムが出来る大学は立教以外にはないだろうと思います。このプログラムによって MIB は同じ分野の他の研究科と質的なレベルで差別化も計り、内部でも Japanese for Business がなければ得られないシナジーも実現しています。MIB にとって、日本語教育センターの存在、そして役割は宝そのものがあります。【スライド③-16】

日本語教育センターが行う学部・研究科との高度な教育連携が真のグローバル化に必要な教育基盤の構築に大きく起用し、さらに立教大学で特色ある教育プログラムの実現を可能にしています。日本語教育センターによるこのような能動的な役割が今後より一層重要になると考えます。

○丸山 デイヴィス先生、ありがとうございました。この Business Japanese のコースを立ち上げた年の授業初日、学生たちにゴールを提示するときに、「この授業の目標は目指せデイヴィス先生なんだ」ということを言ったら、学生たちの目標がぴっと定まった、本日はそのときのことを思い出しながらお話を伺いました。どうもありがとうございました。

それでは続きまして、ビジネスデザイン研究科との連携の可能性と課題ということで、山中先生、どうぞよろしく願いいたします。

【スライド③-1】

College of Business
Graduate School of Business

**Master in International
Business Program (MiB)**
+
**Japanese Language
Education for Business**

Scott Davis, Director MIB



【スライド③-2】

Today: 2 Points

1. The MIB is the only graduate program in Rikkyo offered entirely in English.
2. Why does an English-only program need a Japanese language education component?

【スライド③-3】

What is the MIB?



【スライド③-4】

What is the MIB? **Program objectives**

Global Mind

Conceptualization

Empathy

Inclusivity

Rikkyo Spirit

Freedom

Responsibility



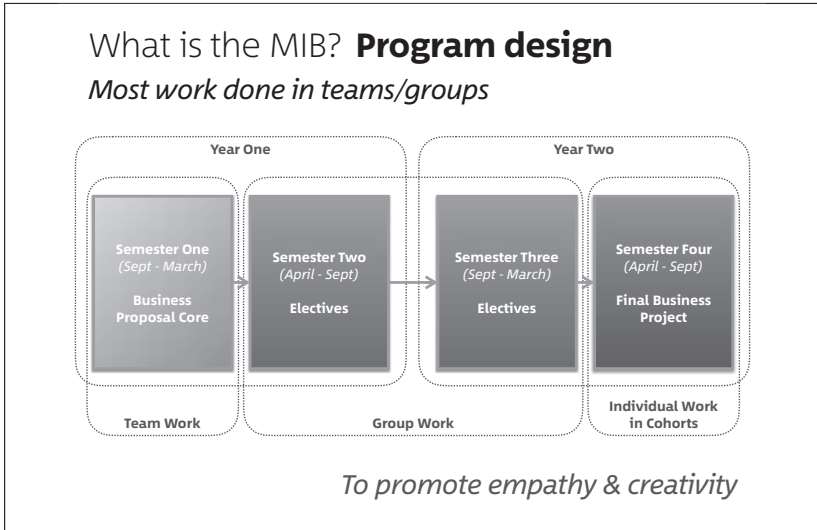
+



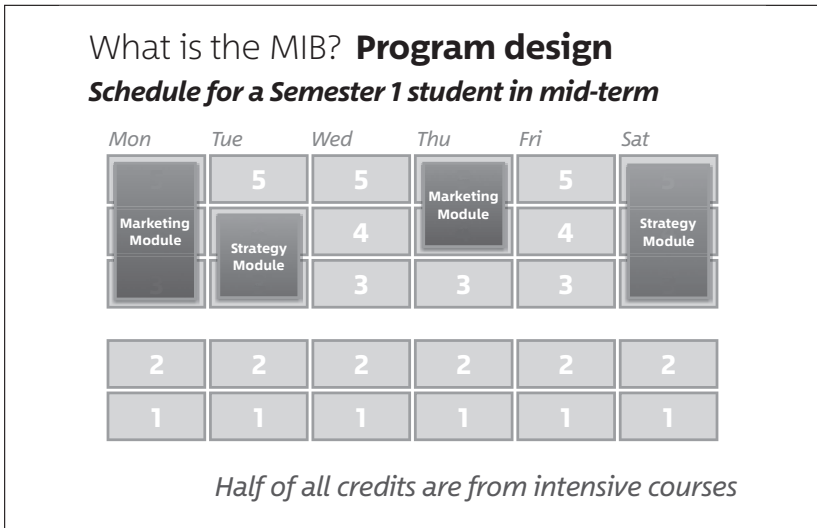
=



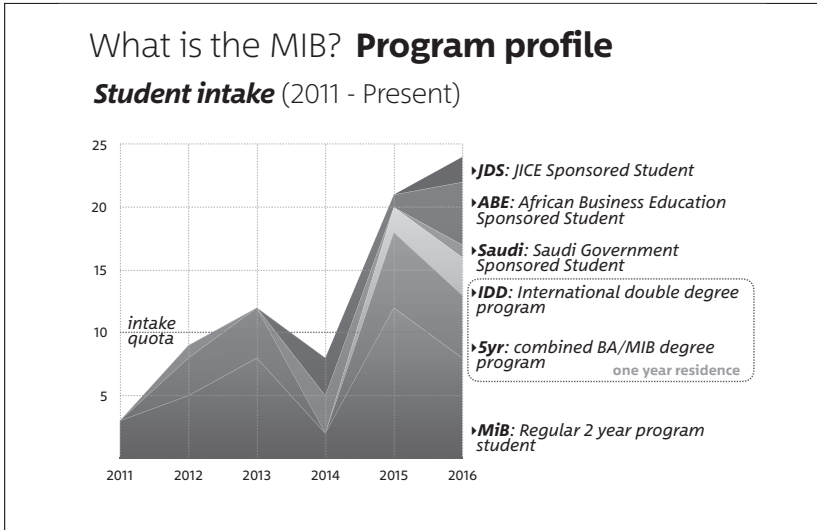
【スライド③-5】



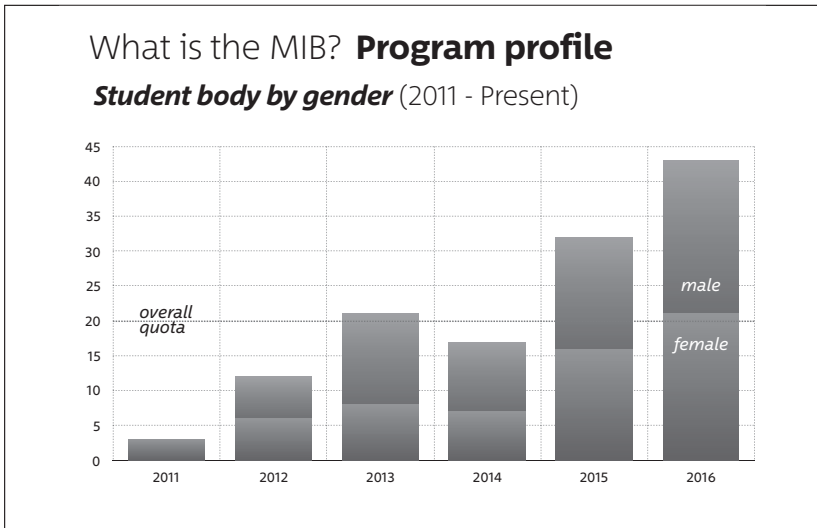
【スライド③-6】



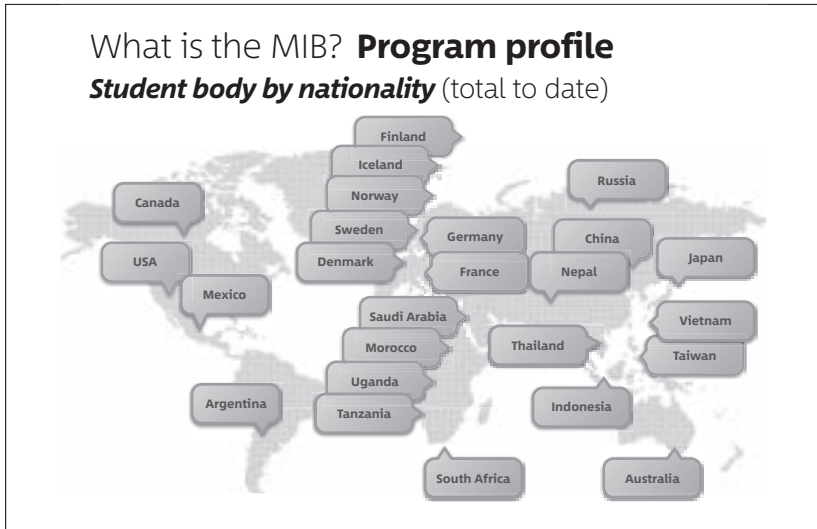
【スライド③-7】



【スライド③-8】



【スライド③-9】



【スライド③-10】

All English language program

Original design was that no Japanese Language instruction was needed or wanted.

Instead, students had issues with Japanese language administrative procedures required by Rikkyo.

however...

【スライド③-11】

1. Employer expectations

"Having studied for 2 years in Japan a Business Masters graduate should be able to function in a Japanese language environment."

2. Student career goals

"Want to develop the ability to function in a Japanese language environment in order to open my own business."

【スライド③-12】

What is the MIB? **Program design**
Japanese for Business Advanced

Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
	5	5		5	
Marketing Module		4	Marketing Module	4	Strategy Module
	Strategy Module		3	3	
		3			
BJ-A	BJ-A	BJ-A	BJ-A	BJ-A	2
1	1	1	1	1	1

【スライド③-13】

What is the MIB? **Program design** *Japanese for Business Intermediate*

Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
	5	5	Marketing Module	5	
Marketing Module	Strategy Module	4	Strategy Module	4	Strategy Module
		3	3	3	
2	2	2	2	2	2
BJ-i	BJ-i	BJ-i	BJ-i	BJ-i	1

Half of all credits are from intensive courses

【スライド③-14】

Learning benefits

After introduced BJA 6 Bji discovered an unexpected benefit:

Students started displaying a significantly greater appreciation of the:

- social dimensions (contextuality) &
- behavioral characteristics (empathy)

defining organizational behavior & managerial processes in Japan

【スライド③-15】

... and an unintentional experiment

Introduced textbook based Japanese language program for joint degree program students

Half studied Japanese, half French

No evidence of contextually or empathy development benefits gained in either group

【スライド③-16】

Japanese for Business at the MIB is:

Value adding: The specifically designed Japanese language instruction programs are a significant facilitating factor enabling the MIB as an English based, Japan located program to achieve its goals.

Branding & Differentiation: JBA & JBi are now one of the most frequently mentioned program features by people in admissions inquiries.